

「癌は誰でもなるわ、でも何で私なの？」

— 30歳キャリアウーマン、左乳房全摘手術のドタバタ顛末記！

映画・医療ライター こもり 小守ケイ

「あの男、イケてない？」。香港のレストラン。仕事にも遊びにもエンジン全開の30歳の女性広告会社社員、ビンゴが女友達とアフター5を楽しんでいた時、近くに座った赤ジャケットの男が目に入る。

その後、立ち寄ったバーで偶然、その男と再会。意気投合した二人は、ビンゴの自宅フラットへ。自然な成り行きで抱き合ったものの、男は彼女の胸に触れるや、思わず手を引っ込め、おもむろに触診し始める。「何すんのよ！貧乳で悪い？変態、帰れ！」。

「君！話がある」。翌日の夕方、友だち達とサウナに寄ったビンゴの前に、赤ジャケットの男、ヴィがまた現れる。「実は僕、医者なんだ。君の左胸にしこりがある。乳腺科を予約しておいた」。

映画はロマンチック喜劇仕立てで、乳癌に直面したビンゴが苦しみながらも成長していく姿を描く。乳癌の自己診断法なども登場し、ピンクリボン運動にも有益だ。チョウ監督作品。

腫瘍の80%は良性だが、20%は悪性

ビンゴは早速、友達と一緒に自宅の鏡の前で、“乳房の自己診断マニュアル”に沿って左乳房の異常やしこりなどを確かめてみる。しかし、はっきりせず、心配になった彼女は、ヴィが紹介した乳腺科クリニックへ。

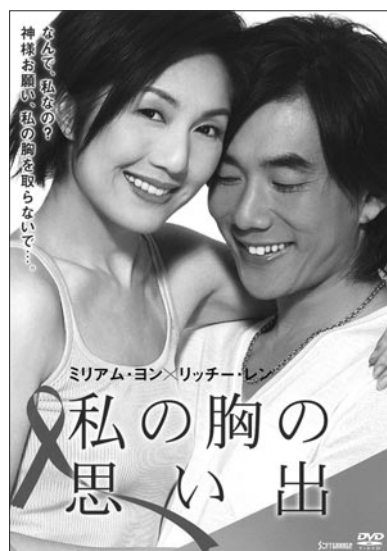
「しこりは本当？」。乳腺科医は左乳房の腫瘍を確認し、「もしも悪性で、乳頭近くに広がっていれば全摘手術」。ビンゴは卒倒しかけるが、「家族に乳癌がなければ可能性は低い」に望みを託し、マンモグラフィーと組織検査に臨む。しかし、その夜、久しぶりに実家で夕食を囲むと、祖母も叔母も乳癌だったと…。

「乳房切除？結婚して子供も欲しいのに…」

数日後、検査結果は“悪性。左乳房全摘手術+化学療法”。凍りついたビンゴだが、心配で乳腺科に立ち寄ったヴィには「よくも脅かしてくれたわねッ！結果は“問題無し”よ」とバッグで殴り付け、友達に

は「早く発見できて幸運。ポジティブに行くわ」。しかし一人になると、涙ながらに「なんで私だけ？神様、助けて…」。“最先端の女”と強がっても真実の姿は若き未婚女性、癌の恐怖に加えて、結婚&出産願望から“乳房の無い自分”が受け入れられない。

そんな折、昔の恋人から「漢方も良い」と聞いた彼女は、乳房温存手術で済むよう、高価な漢方薬を飲み始める。しかし癌は縮小せず、その上、その漢方薬は、金に困った昔の恋人と漢方医が謀った詐欺だった。追い詰められたビンゴは、ついに練炭自殺も…。



提供：ユナイテッドエンタテインメント
発売：Softgarage 販売：JSDSS(ジーダス)
写真：ビンゴ(左)とヴィ(右)

映画「私の胸の思い出」

ウィン・チョウ監督、2006年、香港

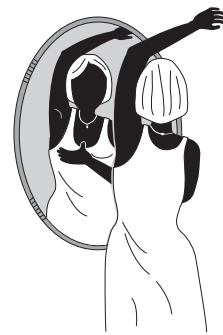
温かな言葉に支えられて…。

ある日、泥酔した彼女は、居合わせたヴィに「アンタが悪い！知らなければ良かった」と八つ当たり！しかし、“人助けが生きがい”という精神科医の彼は「怒りも発散の一つ。怒って良いんだ」と受容し、さらに、自分を見失った彼女に「逃げないで。本来の君に戻れよ」。ビンゴは初めて彼に信頼感を抱く。

「紹介したい人がいる」。ヴィに勧められ、彼の友人夫婦を訪ねたビンゴ。乳癌手術後に出産した妻が「ちゃんと向き合えば、幸せになれるわ」と微笑めば、夫も「ヴィに『妻の胸以外の長所を見つけろ』と言われてね」。乳房切除の葛藤を

乗り越えた夫婦がいた！

心が軽くなったビンゴ、今は乳癌をみつけ、その上、支えてくれているヴィに感謝し、彼の気持を確かめる。「無くなったら、気にする？」。そして、「気にしない」という彼の答を聞くや、即、全摘手術を決断。乳腺科に予約を入れた！



乳がん（私の胸の思い出）

日本人女性の乳がん罹患率は年々上昇し、09年の調査では16人に一人が乳がんになることが判った。発症しやすい女性の特徴は、初潮が早い、閉経が遅い、妊娠・出産歴なしなどであり、高エストロゲン血症に長期間曝されているためといわれる。他にも高脂肪の食事、肥満、高学歴、乳がんの家族歴などが関与している。発症は30歳代後半から増加し、ピークは40歳代後半にある。35歳以前に発症した乳がんを若年性乳がんといい、家族歴があることが多く、遺伝子異常があることも知られている。

乳がんは早期発見・早期治療が予後に大きく影響するので、乳房のしこり、隆起、陥凹や、乳汁分泌、血性乳汁などを自己検診で発見するか、定期的な乳がん検診で早期発見することが重要だ。自己検診の方法は、触診でしこりがないか、乳頭からの分泌物がないかを調べる。次に鏡の前で両手を挙げ、乳房に凹み、ひきつれや左右差がないかを視診する。精密検査ではX線を用いるマンモグラフィと超音波検査が行われる。

治療は、初期であれば、乳房温存手術に放射線療法を併用する。進行していても遠隔転移がなければ術前に化学療法を行い、外科手術を施行する。ホルモン受容体が陽性であれば、術前後の内分泌療法が有効だ。遠隔転移があれば、化学療法が主になる。

監修

結核予防会 新山手病院
生活習慣病センター長

みやざき しげる
宮崎 滋